

摘梢による超密植桑園の先枯れ防止

農業研究センター 農産園芸研究所 生物資源部

担当者：西口 達郎

研究のねらい

超密植桑園の年間条桑収穫法（「農業の新しい技術第10号」平成9年5月）は、収穫が省力的に行えるうえ高収量であるが、8月中旬に収穫したまま放置すると冬期に枝条が先枯れして翌春の収量が低下する傾向がある。そこで、この点を改善するため秋期に10日間隔に枝条の先端を摘梢し、摘梢時期と先枯れ及び翌春の収量の関係を明らかにする。

研究の成果

- 1 超密植桑園の年間条桑収穫法で利用できる品種のうち、「桑FI系統」は先枯れが少ないが、「みつみなみ」は発生し易い（図1・2）。
- 2 「桑FI系統」では摘梢処理の効果が小さく、先枯れが発生し易い「みつみなみ」では摘梢時期として10月中旬までが適当と考えられた（図2）。
- 3 翌春の桑収量についても、「みつみなみ」において摘梢の効果が認められ、10月中旬に摘梢すると有効条長が長く残り、収量が5割程度増加する（図3）。
- 4 超密植桑園を8月中旬に収穫する場合、「みつみなみ」は先枯れが発生する傾向にあり、10月中旬に摘梢することにより先枯れを予防し翌春の収量を確保できる。

普及上の留意点

- 1 春切の超密植桑園では、最終の収穫を8月中に終了することが必要である。
- 2 年度や地域による温度変化に注意する。
- 3 枝先の15cm程度を切除する。

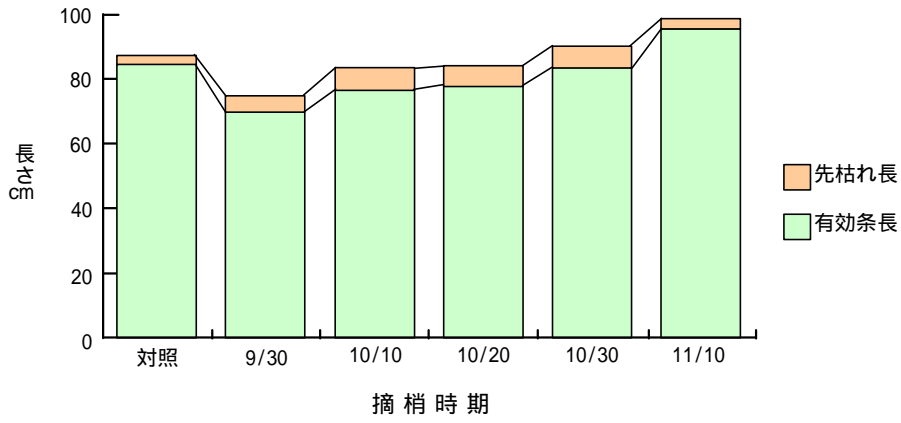


図1 秋期摘梢時期と先枯れ長（桑F1系統、前年8月15日収穫）

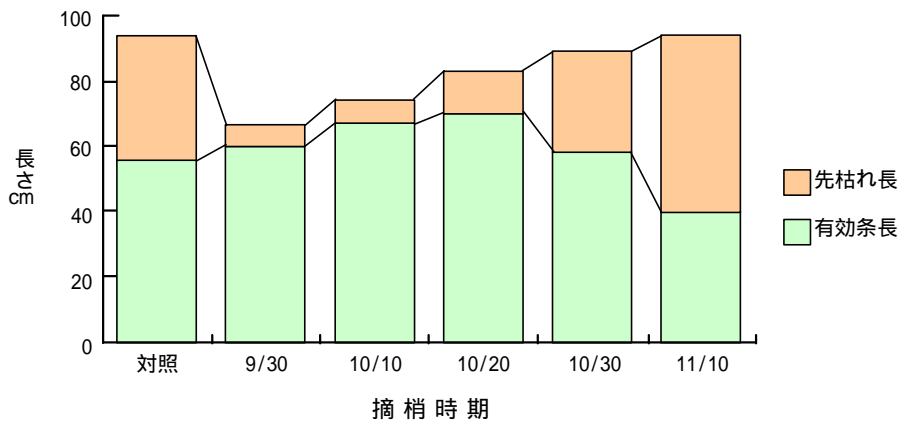


図2 秋期摘梢時期と先枯れ長（みつみなみ、前年8月15日収穫）

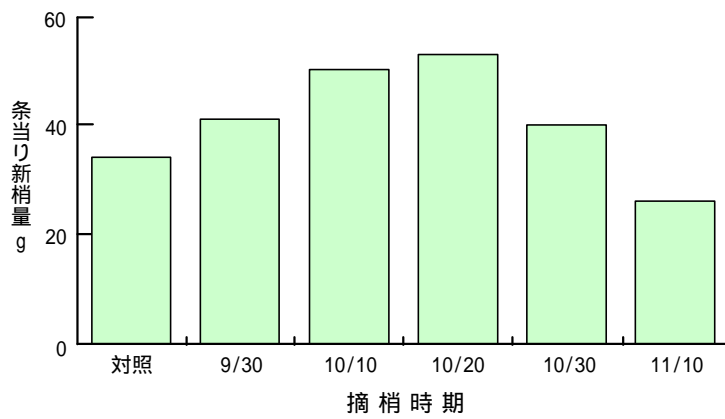


図3 秋期摘梢時期と翌春の収量（みつみなみ、前年8月15日収穫）